

2月10・11日の「信夫三山暁まいり」が近付いてきました。江戸時代から続く早春の伝統行事は、五穀豊穡と健康を祈願し、信夫山羽黒神社に日本一の大わらじを奉納することで広く知られています。また、急な雪の参道を男女が助け合って登り参拝することから縁結びにもご利益があるとも言われています。今号では、奉納する大わらじ作りの技術を継承する「御山敬神会」会長の西坂信一さんに歴史や見どころ、わらじ作りの秘話などを伺いました。

大きなわらじに
早春の風物詩



一年の幸せを託して祈る

信夫三山暁まいり

もともとは仁王様のために奉納していた大わらじ

「信夫三山暁まいり」は、中央に羽黒山、西に羽山、東に熊野山が連なる信夫山に鎮座する羽黒神社の例祭です。大わらじ奉納は、かつて境内にあった仁王門に安置されていた仁王様のためにわらじを奉納するようになったことが始まりと言われています。

長さ12メートル、幅1・4メートル、重さ2トンにもなる大わらじを一手に引き受け制作しているのが御山敬神会の皆さんです。会長の西坂信一さんに日頃の活動を伺うと「暁まいりのほかにも国内外のイベントに福島を代表する祭りとして赴く際の大わらじもわれわれが制作しています。地元の小学校の総合学習の時間に招かれて、わらじ作りや正月飾りの作り方を教えたりもしています」と話してくださいました。



御山敬神会 会長 西坂 信一さん

昭和11年生まれ。御山地区の氏子らで組織し、大わらじ作りの技術を継承する「御山敬神会」6代目会長。黒沼神社筆頭総代。曾祖父は、もともとあった里神楽を29座からなる演目に編成した御山太々神楽の家元。

使う稲わら約2千束 『農の初め』から制作開始

ひと口に大わらじと言いますが、一体どれくらい稲わらが使われるのでしょうか。「2千束は必要です。量が量だけに確保に苦労した時期もありました。今は、稲わらを届けてくださる農家さんと契約できたのでホッとしています」

きれいなわらじ作りのための下準備も重要です。西坂さんたちは「わら打ち」^{※1}、わらすぐり^{※2}などの作業を年末に済ませて新年を迎えます。「気持ち新たに1月11日の『農の初め』から作り始めて2月10日に奉納します」



▲羽黒神社に奉納される大わらじ

約100人の担ぎ手によって羽黒神社を目指す大わらじ (撮影/市民カメラマン 中央良之さん)

元氣な掛け声で沿道の人々を楽しませる「子供わらじ」

「今年も楽しみ」と西坂さんが期待しているのが昨年、初めての試みとして行われた「子供わらじパレード」です。「昨年は、市内の小中学生約500人が参加し、長さ2・5メートル、重さ約70キログラムのわらじ2基を交代で担ぎました。大人が担ぐ大わらじと小学生たちが元氣いっぱい担ぐ『子供わらじ』と両方をたくさんの人に見てほしいですね」。道開きの神と言われる天狗を先頭に、道中を清々しく祓いながら



▲元氣いっぱい「子供わらじ」を担ぐ小学生たち (撮影/市民カメラマン 渡部司さん)

大わらじと担ぎ手の威勢のいい掛け声で人々を楽しませる信夫三山暁まいり。福島の伝統行事に足を運んではいかがでしょう。



▲大わらじ制作は福島市御山地区の「大わらじ作業所」で行われる

信夫三山暁まいり

平成29年2月10日(金)・11日(祝)

●大わらじ奉納・子供わらじパレード(時間は予定)

【出発】10日 午前9時：大わらじ作業所

【御山太々神楽 舞の奉納】

10日 午前11時20分：福島駅東口広場

【奉納】10日 午後3時：羽黒神社

※子供わらじパレードは、護国神社で終了

●暁まいり福男福女競争なども行われます。

※信夫山の奉納順路周辺では交通規制が実施されますので、ご注意ください。

■問/信夫三山奉賛会(商業労政課内) ☎024-525-3720

大わらじ奉納・子供わらじパレード順路(予定)

